

新体操男子ジュニア適用規則 2019 年度改訂

次に示すものを除き、(公財)日本体操協会新体操採点規則による。

1 禁止技

団体競技、個人競技ともに以下の技を禁止する。なお、禁止技を行った場合は構成・実施ともに 0 点とする。

- (1) 前方宙返り転 (1 と 1 / 2 回転) 以上
 - (2) 後方 2 回宙返り以上
 - (3) 前方宙返り直接正面支持臥
 - (4) 1 回以上の後方宙返りをともなった直接正面支持臥
 - (5) 組運動の飛ばし技での直接正面支持臥
- ※ (1) (3) は後ろとびひねりからを含む

2 難度の要求要素

- (1) 団体競技、個人競技とも 1 D 2 C 2 B とする。(変更)
- (2) 個人競技の投げ上げ回数は 2 回以上とする。(変更)
- (3) 個人競技の転回系は最大 3 回までとする。違反した場合超過一つにつき 0.30 の減点。
4 回目以降は難度および要素の認定はしない (追加)

3 特別難度

団体競技で以下の転回系を実施した場合は、特別難度として採用する。

- (1) 後転とびからの伸身宙返りを 6 人で実施した場合は D 難度とする。

4 緩和規則

(1) 難度変更

後ろとびひねり前方宙返りおよび後方宙返り 1 / 2 ひねりの基礎難度を C 難度とする。

~~(2) 難度の取り扱い (削除)~~

~~個人競技において、投げ受けの難度は、受けで手具に触れた時点で難度として数える。~~

(2) 追加の難度 (変更)

個人競技の構成中に 3 つの D 難度が入っている場合、追加の難度として 0.10 の加点を
をする。

(3) 減点緩和

(ア) 団体競技において、転回系での減点は 1 つのシリーズにつき最大 1.00 点とする。

(イ) ロープの 3 重跳びの要素不足

減点… 0.20
点

5 手具の規格

体格差が大きいため、（公財）日本体操協会指定業者が販売する手具が使用できない場合は、規格通りであれば自作でも可とする。

手具の規格	スティック	リング	ロープ	クラブ
素材	木製・合成素材 (プラスチック)	木製・合成素材 (プラスチック)	麻製・合成繊維	木製・合成素材 (プラスチック)
重量	最低 150 g	1 個最低 100 g	自由	1 本最低 100 g
形状	長さ 70 c m～110 c m 直径 2.5 c m～3.5 c m キャップ 最大直径 4 c m 長さ 5 c m以内	内径 35 c m～45 c m 太さ (径) 2.5 c m～3.5 c m	長さ・太さ 自由 両端 結び 2 個以内まで つけてよい 滑り止め 両端 10 c m以内で 覆ってよい。	長さ 40 c m～50 c m グリップ (頭) 直径 4 c m以内 首 (径) 1.5 c m～3.5 c m 胴 (径) 6 c m～ c m 胴の長さ 12 c m～18 c m
色彩	自由 (ビニールテープで覆うことは可)			
その他の条件	長さは、検定品を 切って調節するこ と	規格通りであれば自 作でも可		女子ジュニア検定品 または女子検定品で も可

2016 年 2 月一部改訂

2019 年 2 月一部改訂